



凌雲台

龍野小学校 学校便り

<No.10> H31.1.30
文責：校長 江上 知男



校内持久走大会 応援ありがとうございました！

1月25日(金)は校内持久走大会でした。幸いにも天候に恵まれ、子どもたちにとって素晴らしい大会となりました。ところで、保護者や地域の皆さまも、子ども時代には持久走の経験が有られると思います。「喜んで走っていましたか？」…と聞くと、「ハイ！」と答えられる方は多くないと思

います。きついですものね。それでは、龍野小学校では、なぜ持久走に取り組んでいるのでしょうか。

- ①健康に良いから…持久走は「有酸素運動」なので、血液中に余っている糖分や脂肪を酸素を使って消費します。また、生きるのに大切な心肺機能を強くします。年齢に応じた走り方ができます。
- ②目標を設定しやすいから…持久走を評価するものとして「タイム」があります。もちろん、友達と比べることもありますが、自己記録の更新を目指して達成感を味わうことに大きな意味があります。
- ③計画性や精神力を育てるから…持久走は短距離走と違って、ペース配分が重要です。完走するための計画・実行が試されます。また、自己記録の更新や完走する目的のために、多少きつくても途中で投げ出さない精神力が必要になります。この力は、生きていくために必要だと考えます。

今年の持久走大会は、インフルエンザ等により、残念ながら走ることができない人も数名いましたが、走った人は全員完走することができました。感動しました。子どもたちが最後まで頑張ることができたのは、保護者や地域の皆さまによる応援のおかげだと考えています。また、地域ボランティアの方々に、安全確保のために要所に立っていただきました。心から感謝申し上げます。



人間の「笑顔」って大切なんだ…

先日テレビを見ていたら、ドキュメ

ンタリーで「人間の赤ちゃんは、すごく未完成な状態で生まれてくる」という内容を伝えていました。人間は動物の分類上、牛や馬などと同じほ乳類です。人間以外の動物は、産まれたときから生きていく機能は概ね整っており、産まれてすぐに立ち上がることができます。ところが人間の子どもは、首がすわるのに2ヶ月、寝がえりに4ヶ月、ハイハイに8ヶ月、歩くまでには、1年以上もかかるのです。このことから、人間は全く無防備な状態で生まれてくるので、身を守る能力は何も身につけていないかに思えます。

ところが、人間の赤ちゃんすべてが先天的に身につけている最強の能力があるというのです。それは「笑顔」だそうです。赤ちゃんは、その「笑顔」で親だけでなく、他人の愛情まで惹きつける力を身につけているというのです。「言われてみればそうかも知れない！」と納得する気がします。

ところで、近年子どもに対する「虐待」が社会的な問題となっています。暴力を加えるという身体的な虐待もそうですが、「ネグレクト」といって子育てに無関心な虐待が大きな問題と言われます。幼少期からしっかりと愛情をうけ、会話と笑いのたえない家族円満な環境で育った子は、他人を信頼することができます。他人のために何かをすることに喜びを見出すことができるようですが、「ネグレクト」を受けて育った子は、表情が乏しくなり、成長してからも自分の感情を表現することができにくくなるそうです。程度の差はあると思いますが、際限なくモノを与えたり、好きなアニメを見せ続けたり、夜遅くまで親のライフスタイルにつき合わせたりといった一見問題にならないように思える育て方も気がかりです。

3人の子どもの父親である私は、我が子の「笑顔」をしっかり受け止め、相手意識を持つ子どもに育てているのか…。ムム…心配です。我が子が自分の力で生きていけるよう、しっかり関わろうと思います。

2月6日(水)は、ICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクトの公開授業の日です。PTA役員の皆さまには大変お世話になります。保護者や地域の皆さまの授業参観もお待ちしています。